

戦争について考えざるをえない日々が続いている。悪い意味で進歩した兵器によって、人々が労力と節約の末に築きあげた希望の施設や家財が突如として破壊され、灰燼に帰す、残酷な光景が展開されている。戦争を惹き起こすのは富や権力をほしいままにしている者であり、戦争の災禍を直に被るのは、貧しく無名の普通の人々であり、この不幸な状況に対抗する力を持たない弱者である。子ども女性、病気の人、老人が自分たちの住み家を後にして避難している。この没義道な現実に対して普通の人間は一体なにができるのであろうか。平和なときに私たちが口にする、良心、徳、善意、思いやりなどの言葉が、突如として暴風にあおられる枯れ葉のように見えてくる。非常時に対処する様々な考えがあつて当然で、各自の意見を尊重したいと思う。武器を備えて撃破するというのは、相互の殺し合いとなり、結局相手と同じ行動をすることになる。また非暴力を貫いて、どこまでも不戦を訴え続けるのは、自滅するか多大な犠牲を伴うだろう。力を持たない者は非暴力で抵抗する固い意思を持続するしかない。それも、同志の連帯を通じて意思を強化する方法で。枯れ葉がうず重なって山をなせば、大部分の葉っぱは、地上に留まるだろう。悲しいけれど、これが最善の策といえるかもしれない。

おしらせ

令和四年度定時総会の開催

コロナ感染防止対策を講じて、以下の通り定時総会を開催します。総会後の心のセミナーと併せてご

参加いただきますようお願いいたします。なお、都合により出席できない正会員様には、書面による表決権を行使いただく手配を講じます。

★日時 六月十一日(土)

十四時より

★場所 安曇川公民館

カルチャールーム

中江藤樹・心のセミナーの開催

コロナ禍のために延期してしました「中江藤樹・心のセミナー」を、別紙チラシのとおり開催いたします。入場者数の制限等、コロナ感染拡大防止策を講じて実施します。ご参加をお待ちしています。

★日時 六月十一日(土)

十六時～十七時三十分

(十五時三十分開場)

★場所 安曇川公民館

ふじのきホール

★演題 「今、藤樹先生の教えを

どう活かすか」

★講師 東洋大学名誉教授

吉田公平 先生

★参加費 無料

高島市内小学校三年生

「立志祭」に際しての作文

●「立志祭」について

「立志祭は明治四十一年頃から、青柳小学校を中心として実施されてきた歴史ある行事であり、藤樹先生の誕生日である三月七日に、子ども

たちは九歳の頃の藤樹先生の思いを知り、今の自分を見つめ、自分の意志をもつための足がかりとしてきた。今もなお、藤樹先生の教えは、人を敬い思いやりの心を育む人間形成にとって大切なものであり、その

教えを学び、心を豊かにたくましく生きていこうとする高島の子どもの育成をねらいとして、高島市内の小学校において立志祭を実施する。」

(高島市教育委員会学校教育課) その具体的内容は学校によって異なりますが、講話「大学」唱和、「私の志」発表、藤樹紙芝居、藤樹カルタ大会等々です。また、旧町村内で合同開催される所もありましたが、

コロナ禍になって各学校において開催されています。

そこで、高島藤樹会では六年前からその「立志祭」において、広報・啓発活動の一環として、「五事を正す」とキャラクター「よえもん君」を印刷したクリアファイルを市内

三年生全員に贈呈してきました。立

志祭の当日に、該当地域の理事、もしくは校長先生から三年生にクリアファイルを渡していただきました。なお、当日「五事を正す」など

についてのお話をする時間をいただいた会場もありました。お世話になりました各股东及び理事の皆様、ありがとうございました。

●「三年生の作文」の紹介

立志祭終了後、三小学校から作文をご提供いただきましたので、次に紹介させていただきます。

【安曇小学校】

「私の思い」

藤田 さな

▼立志祭に参加して▲

発表は、はずかしくてドキドキしましたが、ゆめを言うのがはづかしかつたらなれないかもしれないと思ひ、がんばって言えたのがうれしいです。二十さい?に見てどうなるかが楽しみです(※)。

立志祭をして、しようらいのゆめにもう一度しっかり向き合っています。しっかり考えて行動したいです。

(※) 安曇川町内では三年生全員の「私の志」を藤樹書院に奉納し、その後、成人式の日に各人に返却してもらったことになっています。

▼藤樹先生から学んだこと▲